Report 01

山形県循環型社会形成推進計画

～ごみゼロやまがた推進プラン～に係る事業等について

山形県文化環境部循環型社会推進課長　落合敬一 OCHIAI Keiichi

1. 計画の概要

平成18年3月に策定した「山形県循環型社会形成推進計画」（ごみゼロやまがた推進プラン）では、一般廃棄物、産業廃棄物ともにその埋立て最終処分量がゼロとなっている社会『ごみゼロやまがた』の実現（20年後の平成37年度を目途）を目指すこととしております。

そのための第一歩として、平成18年度からの10年間の基本目標として、「全国一ごみの少ない県を目指す」とともに、「3R推進による循環型産業の振興」を掲げ、

❶「資源循環型社会システムの形成」
❷「資源の循環を担う産業の振興」
❸「廃棄物の適正な処理による環境負荷の低減」

の3つの柱に基づき、産業廃棄物税も活用して施策を推進していくこととしております。

なお、本計画を推進するために、「ごみゼロやまがた県民運動」を展開しており、その運動のキャラクターとして「ごみゼロくん」を公募して決定しています（図1）。

また、本稿では、主として産業廃棄物関連事業について述べます。

2. 計画の進捗状況

平成19年度における県内の産業廃棄物の発生量は、4,009千トンと推定され、平成18年度の状況と比べ、医薬品製造業からの汚泥排出量が大幅に増加したことなどにより、205千トン増加しており、今後、中間目標値である3,777千トン（平成22年度）を達成できるかは微妙なところであります。

産業廃棄物の処理は、ほとんどが県内で行われており、平成19年度の減量化率は42%、資源化率は53%、最終処分率は5%となっております。

県内の産業廃棄物処理施設は、平成14年5月から建設リサイクル法が施行されたことに伴い、がれき類・木くず破砕等のリサイクル関連施設が増加しております。

産業廃棄物の埋立量については、産業廃棄物税や3Rの推進などにより、減少すると想定され、事実、埋立量は8年前の約半分となっています。

なお、一般廃棄物も同様の傾向ですが、全国的には、ここ数年リサイクル率が上昇しているにもかかわらず、県内におけるリサイクル率は、ほぼ横ばい状態で推移しております。

このような状況から、今後県内の一般廃棄物と産業廃棄物のリサイクルをより一層推進する必要があります。

3. 事業のトピックス

3R推進全国大会の開催

平成20年10月23日から26日までの4日間、山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）を主会場として開催しました。

県内外から約4万6千名の参加があり、展示ブースは121と多くの企業団体からの出展がありました。

なお、本大会の開催内容の詳細については、「3R活動推進フォーラム」のウェブサイト上にて見ることができます。

平成21年度の取組み

❶ゼロエミッションの推進

ゼロエミッションの推進ですが、ゼロエミッションセミナーの開催については、7月30日に山形県高度技術研究開発センターを会場に、慶応義塾大学教授細田衛士氏をお招きし、「資源循環の将来展望」と題しての講演会を実施しましたが、120名の方々が参加されております。

また、10月6日には、会場を庄内地区に移し、山形県産業技術短期大学校庄内校で、BUN環境課題研修事務所主宰長岡文明氏による講演会並びに事例発表会を実施し、70名の方々が参加されております。



図1 ごみゼロやまがた県民運動キャラクター「ごみゼロくん」

❷リサイクル製品の認定､リサイクルシステムの認証

リサイクル製品、リサイクルシステムの認証については、現在、34製品をリサイクル製品として認定しており、システム認証は7システムです。

毎年、認定製品、システム認証に関するパンフレットを作成し、広く広報するとともに、県ホームページにおいても情報発信に努めております。

なお、定期的に、リサイクル認定製品製造業者との意見交換会を実施し、普及啓発に向けて事業者との連携強化を図っています。

❸ごみゼロやまがた環境展'09の開催

環境関連産業の振興を図り、3Rをはじめとする環境とライフスタイル・ビジネススタイルの関わりについて広く情報を発信し、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成促進を目的として、10月31日、11月1日に山形国際交流プラザを会場として開催しました。

展示ブースは48ブース、入場者数は約1万5千名となりました。

併せて、「もったいないやまがた780大会」[注1]を開催し、ごみゼロ推進功労者として、4団体を表彰しております(写真1)。

❹高校生環境ものづくり発表会

今年度、初めての試みとして、次世代を担う高校生による「高校生環境ものづくり発表会」が11月22日、霞城セントラルアトリウムを会場に開催いたしました。発表高校は7校でしたが、入場者数は約3千名と盛況でした。

山形県内で独自の環境活動に取組む専門系高校生が主役となり、また、同世代の高校生が彼らの共鳴者となり、一体となった高校生世代から3R啓発行動を県都から発信しました(写真2)。

❺不法投棄未然防止等対策

不法投棄未然防止等対策については、県内4つの不法投棄防止協議会によるパトロールや原状回復を実施した結果、現在の不法投棄箇所は30箇所(30㎡以上)であり、今年度は40箇所について、原状回復を終了しております(写真3)。

また、空からの監視として「スカイパトロール」や廃棄物運搬車両検問を隣接県と連携して実施しております。

さらには監視カメラの増設を行うとともに、不法投棄防止協定をコンビニエンスストアチェーンなどと締結し、不法投棄防止を呼びかけるポスター掲示を行っております。

さて、今年度のトピックスを中心に記述してまいりましたが、産業分野向けとしては、リサイクル施設整備への支援や企業が行う研究開発等への支援も積極的に行っているほか、セミナー開催をはじめとして、循環型産業を担う人材の育成にも努めております。

最後になりましたが、山形県循環型社会形成推進計画に基づく諸施策が実を結び、循環型社会が形成され、将来ともに住みよい山形県であればと思う次第です。

注1 計画策定時、県民一人一日当たりのごみの排出量が870グラム(当時の国の算定基準による)であったことから、一人100グラム減らして日本一ごみの少ない県にしようというスローガンのもとに始められた県民大会のため、もったいないやまがた780大会と名づけられました。



写真1 ごみゼロやまがた環境展'09



写真2 高校生環境ものづくり発表会



写真3 原状回復作業

この記事に関する問合わせ先
山形県文化環境部循環型社会推進課
TEL 023-630-2322 FAX 023-625-7991 e-mail yjunkan@pref.yamagata.jp